

高鍋町の 先賢と文化財



鳴野棒踊り

昭和52年（1977年）
高鍋町指定無形民俗文化財

今から250年ほど前の江戸時代中期（1770年頃）鳴野地区で流行した疫病が「水神の祟り」とされ、棒踊りを奉納することで水神慰霊を考えたことが始まりといわれています。

この棒踊りは、当時の地元の人々が、現在の新富町の上日置地区の人々から伝授してもらいました。上日置の踊りは水神で有名な「水沼神社」に奉納していたためです。明治の末に4、5年間断絶、また第二次世界大戦による物資等の欠乏による中止など、2度、断絶した時期がありました。有志により再興されてきました。現在は鳴野地区の「鳴野棒踊り保存会」により保存・伝承されています。

鳴野棒踊り | Shigino bouodori

棒踊りの由来については水神慰霊として奉納されたのが始まりとされますが、それにまつわる次のような興味深い2説がありますのでご紹介します。

一・伝説

地区の旧家黒木家の祖先が、あるとき、下の鳴野川（小丸川の支流）に馬を入れておいたところ、その馬が河童（方言でヒヨウスン坊）をくわえて上がってきた。主人は驚いて河童を引き離そうとしたが、馬の歯がその肩口に深くくいこんでいたために片腕がもげてしまった。

河童は、頭の皿の水が干上がって弱っていたが、水を注いでやると元気づいて川へ飛び込んで見えなくなりました。

河童がいなくなると馬が河童の片腕を離したので、主人はこれを深く土の中に埋めてしまった。するとその夜から三晩続いて河童が現れ、「腕を返してください。三晩すぎると肩につがらぬようになるから」と哀願したが、主人はそれを拒んだので、これから、その恨みで地区に疫病が流行し人々を悩ました。

それで河童の霊を慰めるために、先ず川の上（かわのうえ）に水神が祭られ、その後深川（ふかごへ日豊線沿線近く）にも祭られ現在に及んでいる。

二・森栄氏の話（昭和51年（1976年）2月）

昔の高鍋港は港が深く帆船の往来で賑わった良港で明治中期ごろまでは、鳴野にも木材を250カタ〜350カタ（※1）を積む帆船が5、6艘いて材の他、木炭などを積んで美々津港や細島港へ往来し、さらに800カタ〜1000カタを積む大型船も3艘いて、木材等を阪神まで運び、帰路、石灰・獣骨（骨粉にする。当時の肥料は、石灰と骨粉が主だった。）・建築石などが陸上げされ、農業とともにこれらの仕事に従事する人も多く、地区全体に活気がみなぎっていた。

しかし、帆船の賑わいとともに、疫病（コレラ）が流行し死者が多く出たが、川の上地区は水神があり病気にかかる人はほとんどなく、中通り、深川に罹患者が多く、水神のたたりとして、盛大な祭が催され勇壮な棒踊りが駄祈念の日に奉納された。

（※1）1カタⅡ周5寸・長さ2間（周径約15cm・長さ約3.6m）



棒踊りの形式

踊りは2列縦隊で、先頭2名の唄い手と12名の踊り手(※2)で構成されます。鉢巻を締め、タスキを綾取った装いで、各列向かい合い「棒」や「鎌」などを打ち合う勇壮なもので、次の6段階に分かれています。

- 「引き出し」 踊りの隊列を展開する
- 「もじり」 棒を互いに打ち合うのを主技とするもの
- 「立棒」 棒を高く掲げ立てる技を主とするもの
- 「鎌」 鎌の動作を主技とするもの
- 「木太刀」 鎌を木太刀に取りかえて演技する
- 「引き込み」 隊形を変えて、次の演技場へ移動するために、二列縦隊の行進に移る

棒踊り唄

この唄は勝ち戦のときに唄ったものだといわれるように、囃子(はやし※3)はすこぶる陽気で、踊り手の士気を高める大切なものです。唄の文句は次の6種です。

- 1 嫁女(よめじよ)は眼もと 2 霧島松は 3 月夜に抱かれて
- 寝たが 4 しめのの竹は 5 おせるの山は 6 焼野のきじは

一例として「嫁女は眼もと」では、唄の合間に「サアサア サアサア。」「ソレワ ソイソイ。」と囃子がいり、踊り手12名は気持ちを持ちをびったりとあわせて活発に踊ります。

(※2) 本来は2名の鉦打ち(かねうち)2名の唄い手、24名の踊り手で編成されますが、平日開催等により人数が集まらないこと、会場の広さなどの状況から、現在は2名の唄い手と12名の踊り手で縦隊をくんでいます。
(※3) 踊りを高揚させるために言葉や音楽で賑やかににはやしたて

鳴野棒踊り | Shigino bouodori



棒踊り実施の時期

毎年、旧暦9月初午の日(※4)に行う駄祈念(だぎねん)という祭りに奉納しており、現在は鳴野地区にある2カ所(川の上・深川)の水神の碑の前で行われます。駄祈念とは、秋の収穫期を前に牛馬など家畜の安全を祈念し、収穫を感謝する祭事です。この時期は、この地方に洪水の大害を及ぼす小丸川が減水期に入った時で、無事に一夏を過ごし得た感謝の意も含まれていると思われま

(※4) 新暦でいう10月最初の午の日(うまのひ)

棒踊りは各地にいろいろありますが、鳴野の棒踊りはその地の民俗と深く溶け合っていることや地区居住者の総意に深く根差していることが特色といえます。従来神武大祭、都井岬、霧島高千穂峰頂上、別府等で演技した実績があり、また高鍋町内行事への出演、祭事での奉納、県文化祭や県民俗芸能発表会、九州地区民俗芸能大会に出演し業績を残しています。今後も郷土の誇りであるこの無形民俗文化財が受け継がれ、益々発展することを願うものです。

◎踊り手の募集について

「鳴野棒踊り保存会」では地域に古くより伝承されてきた無形民俗文化財「鳴野棒踊り」を一緒に踊っていただける方を募集しています。

- 対象者：……西都・児湯地域にお住まいの方
- お問合せ先：……高鍋町教育委員会 社会教育課 文化係

電話 0983・23・3326